

1 単元名 天皇・貴族が中心となった政治と文化

2 単元のねらい

- (1) 国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことに対する関心を高め、意欲的に追求しようとする。(関心・意欲・態度)
- (2) 聖徳太子の政治と大化の改新、律令国家の確立、摂関政治を通して歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察することができる。(思考・判断)
- (3) 国家が整えられていく過程を色々な資料から、適切に選択して活用するとともに、追求し考察した結果をまとめたり、説明したりすることができる。(資料活用の技能・表現)
- (4) 大陸の文化や制度を積極的に取り入れながら国家のしくみが整えられ、その後、天皇・貴族の政治が展開されたことを理解し、その知識を身につける。(知識・理解)

3 指導にあたって

(1) 教材観 (単元内容の専門的な吟味・解釈)

奈良時代は、東アジアの進んだ政治のしくみや制度を取り入れ、天皇中心の国づくりをめざしていた時代である。律令国家が確立していく中で、その時代に生活していた人々が、どのような暮らしをしていたのかを、様々な資料を通して考察することができる。

(2) 生徒観 (単元内容と生徒との関わり)

男女問わず、歴史に興味・関心がある生徒が多いクラスである。朝読書の時間にも、歴史関係の本をよく読んでいる姿もみられる。地理的分野の授業では、グラフや表から情報を読み取り、その意義や意味するところを考察するということを意図して取り入れてきた。その結果、資料から読み取った情報をもとに、今まで培ってきた知識を活用しながら、自分なりの考えをまとめることができる生徒もいる。一方で、意欲はあるものの、自分の考えをどのように表現したらよいかとまどい、上手く文章としてまとめる力が弱い生徒もいる。そのため、今回は情報を共有しながら1つの意見をまとめ、深めていくために、4人グループの話し合い活動を取り入れることとした。

(3) 指導観 (活用型の授業づくりを含めた単元の系統性・発展性)

律令国家の支配のしくみを、農民のくらしの様子からとらえさせたい。そのために、具体的な資料(木簡・戸籍・「貧窮問答歌」)など、当時の生活を表す多くのものを使って、正しい情報を読み取らせたい。また、生徒自身が読み取ったことをもとに、どのような生活をしていたのかを考察させたい。グループ討議の活動を通して、多面的・多角的に事象をとらえさせたい。

4. 単元の指導計画と評価計画

配 時	学習内容・活動	評 価 項 目(時系列) 社会の学びの観点;①(関心)、②(思考)、③(資料)、④(知識)	指導の流れ 習得・活用・探究
1 習 得 型	・中国にならった国づくり	・律令国家の成立とその特色について、平城京の図やしきみを示した図などをみて多面的に考察している。(思考) ・律令国家では、天皇を中心に、法律と役人による中央集権国家のしくみが整えられたことわかる。(知識)	②③ ↓ (活用) ④
1 活 用 型	・律令制もとでの人々のくらし	・班田収授法のしくみを、いろいろな資料を使って理解する。(知識) ・律令国家を支えた農民の負担と苦勞に関心を持ち、国家と農村の関係について意欲的に追求し発表しようとする。(関心) ・奈良時代は、重税に苦しむ農民の姿を理解し、公地公民制が限界に近づいていたことにまで気づくことができる。(知識)	④ ↓ (活用) ①③ ↓ (活用) ④
1 習 得 型	・権力をにぎった貴族たち	・藤原氏の家系図や公卿に占める藤原氏の割合からなどの資料から、一族が政治の実権を握っていたことを理解し説明できる。(資料) ・平安時代には、公地公民制がくずれ、荘園制に基づく摂関政治が展開していたことがわかる。(知識)	②③ ↓ (活用) ④
1 習 得 型	・天皇・貴族が発展させた文化	・国際的な文化が栄え、のちに文化の国風化が進んだことを写真や図、文献などの資料から、特徴をまとめることができる。(資料) ・古代の日本では、国際的な文化の影響を受けた国家・天皇中心の文化から、貴族中心の国風文化へと展開したことがわかる。(知識)	③ ↓ (活用) ② ↓ (習得) ④

※各教科での学びの観点；①関心、②思考、③表現、④知識

※生徒目線の学びの観点；①こだわる・促される・やらねばと思う、②③考える・工夫する、④知る・覚える

5. 本時の学習

(1) 教材名 律令制のもとでの人々のくらし

(2) 本時のねらい

- ・律令国家を支えた農民の負担と苦勞に関心を持ち、農民の生活を意欲的に追求し発表しようとする。
(関心・意欲・態度)
- ・奈良時代の重税に苦しむ農民の姿を理解し、公地公民制が限界に近づいていたことに気づく。
(知識・理解)

(3) 準備・資料など

ワークシート、資料(史料)、短冊

(4) 本時の展開 (2 / 4)

過程 (配時)	学習内容と活動	指導上の留意点 (・) と支援 (□) 評価 (☆)	指導の流れ 習得活用探究
つかむ (5分)	1 奈良時代の人々の暮らしについて ○前時に学んだことを、簡単に振り返る。	・班田収授法の内容や税制 (租・調・庸) について、再度確認し今日の学習課題との関連を意識させる。	①関
ふかめる (35分)	奈良時代の農民の暮らしをつかもう 2 奈良時代の農民の暮らしはどうであったのか。 ・資料A木簡資料 B戸籍 (男女比の割合) C戸籍 (「逃」の字は何を?) D「貧窮問答歌」 ○グループ内討議をする。 ○グループ内で意見をまとめる。 3 グループの代表者がグループ内でまとめた意見について発表し、意見交換する。	・発表の内容について、メモを取りながら聴くようにさせる。 □討議が順調に進むよう、グループの様子を観察し、支援する ☆前時に学習した班田収授法のしくみを理解し、具体的に人々の生活がどのようなものであったのか意欲的に追求し、発表しようとしている。(評価観点) 関心・意欲；観察 ・各グループの意見について、意見や疑問などができるようにする。	④知 ↓ (活用) ②思
まとめる (10分)	4 農民の暮らしから、公地公民制が崩壊していく様子を学ぶ。 ①重い税 (租・庸・調) の様子 ②生活の困窮 ③農民の逃亡 (田の荒廃)	・発表内容をもとに、公地公民制の限界について図式化する。 ☆奈良時代は、農民の税の負担が重く、決して楽な暮らしではなかったことを理解し、公地公民制が限界に近づいていたことに気づいている。 (評価観点) 知識・理解；自己評価カード	③表 ↓ (習得) ④知